

発表項目 (行事名)	2019年度北方領土中学生作文コンテストの実施結果について																																									
概 要	<p>2019年度北方領土中学生作文コンテストの実施結果を発表します。</p> <p>1 募集期間 令和元年(2019年)5月24日(金)から10月31日(木)まで</p> <p>2 応募作品数 184作品(15校)</p> <p>3 選考会概要</p> <table border="1" data-bbox="357 692 1444 947"> <tr> <td>開催年月日</td> <td>選考委員(作文審査の専門家、北方領土関係団体など5名)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">令和元年 12月19日(木)</td> <td>北海道国語教育連盟事務局次長 大田 利幸 (札幌市立新琴似中学校校長)</td> </tr> <tr> <td>(独)北方領土問題対策協会専務理事 山谷 英之</td> </tr> <tr> <td>(公社)北方領土復帰期成同盟事務局参事 甲谷 俊二</td> </tr> <tr> <td>(公社)千島歯舞諸島居住者連盟事業第二課長 安達 博昭</td> </tr> <tr> <td></td> <td>北海道総務部北方領土対策本部主幹 藤本 雄</td> </tr> </table> <p>4 選考結果</p> <table border="1" data-bbox="357 1014 1444 1339"> <thead> <tr> <th>賞</th> <th>学 校</th> <th>学年</th> <th>氏 名</th> <th>作品名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最優秀賞</td> <td>中標津町立計根別学園</td> <td>9</td> <td>近藤 夏林</td> <td>返還を世界平和の象徴に</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">優秀賞</td> <td>北海道教育大学附属札幌中学校</td> <td>2</td> <td>二階堂 桜子</td> <td>ニエットからズドラーストビチェへ</td> </tr> <tr> <td>網走市立呼人中学校</td> <td>2</td> <td>寺崎 結</td> <td>北方領土問題について</td> </tr> <tr> <td>北海道教育大学附属釧路中学校</td> <td>2</td> <td>皆添 莉子</td> <td>北方領土についての根本的な問題</td> </tr> <tr> <td>根室市立歯舞小中学校</td> <td>3</td> <td>中村 そら</td> <td>これからの北方領土</td> </tr> <tr> <td>佳 作</td> <td>5名</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 他、奨励賞11名</p> <p>5 入賞作品の活用 入賞作品は、若い世代を中心に多くの方に読んでいただけるよう、道のホームページへの掲載や、文集を作成し全道の中学校に配付するなど幅広く紹介します。 なお、入賞作品は、当本部HPに掲載しています。 (URL: http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/hrt/sakubun.htm)</p>	開催年月日	選考委員(作文審査の専門家、北方領土関係団体など5名)	令和元年 12月19日(木)	北海道国語教育連盟事務局次長 大田 利幸 (札幌市立新琴似中学校校長)	(独)北方領土問題対策協会専務理事 山谷 英之	(公社)北方領土復帰期成同盟事務局参事 甲谷 俊二	(公社)千島歯舞諸島居住者連盟事業第二課長 安達 博昭		北海道総務部北方領土対策本部主幹 藤本 雄	賞	学 校	学年	氏 名	作品名	最優秀賞	中標津町立計根別学園	9	近藤 夏林	返還を世界平和の象徴に	優秀賞	北海道教育大学附属札幌中学校	2	二階堂 桜子	ニエットからズドラーストビチェへ	網走市立呼人中学校	2	寺崎 結	北方領土問題について	北海道教育大学附属釧路中学校	2	皆添 莉子	北方領土についての根本的な問題	根室市立歯舞小中学校	3	中村 そら	これからの北方領土	佳 作	5名			
開催年月日	選考委員(作文審査の専門家、北方領土関係団体など5名)																																									
令和元年 12月19日(木)	北海道国語教育連盟事務局次長 大田 利幸 (札幌市立新琴似中学校校長)																																									
	(独)北方領土問題対策協会専務理事 山谷 英之																																									
	(公社)北方領土復帰期成同盟事務局参事 甲谷 俊二																																									
	(公社)千島歯舞諸島居住者連盟事業第二課長 安達 博昭																																									
	北海道総務部北方領土対策本部主幹 藤本 雄																																									
賞	学 校	学年	氏 名	作品名																																						
最優秀賞	中標津町立計根別学園	9	近藤 夏林	返還を世界平和の象徴に																																						
優秀賞	北海道教育大学附属札幌中学校	2	二階堂 桜子	ニエットからズドラーストビチェへ																																						
	網走市立呼人中学校	2	寺崎 結	北方領土問題について																																						
	北海道教育大学附属釧路中学校	2	皆添 莉子	北方領土についての根本的な問題																																						
	根室市立歯舞小中学校	3	中村 そら	これからの北方領土																																						
佳 作	5名																																									
参 考 ※発表のポイントやねらい、経緯等	【添付資料】 ・2019年度北方領土中学生作文コンテスト入賞者一覧 ・最優秀作品本文、優秀作品本文(管内分のみ)																																									

他のクラブとの関係	資料配付 : 道政記者クラブ 同時レク :
-----------	--------------------------

本庁担当 (連絡先)	総務部北方領土対策本部北方領土対策課運動推進グループ(担当:藤本、早坂) TEL ダイヤルイン 011-204-5069 内線22-768
振興局担当	オホーツク総合振興局総務課長 井川 浩樹 電話:0152-41-0602 ※お問い合わせについては、本庁担当に御連絡ください。

2019年度北方領土中学生作文コンテスト 入賞者一覧

賞	市町村名	学 校 名	学年	氏 名	題 名
最優秀賞	中標津町	中標津町立計根別学園	9	こんどう かりん 近藤 夏林	返還を世界平和の象徴に
優秀賞	札幌市	北海道教育大学附属札幌中学校	2	にかいどう さくらこ 二階堂 桜子	ニエットからズドラーズトビチエへ
優秀賞	網走市	網走市立呼人中学校	2	てらさき ゆい 寺崎 結	北方領土問題について
優秀賞	釧路市	北海道教育大学附属釧路中学校	2	みなぞえ りこ 皆添 莉子	北方領土についての根本的な問題
優秀賞	根室市	根室市立歯舞小中学校	3	なかむら そら 中村 そら	これからの北方領土
佳作	七飯町	七飯町立七飯中学校	3	しょうじ なぎ 庄司 凪	日本とロシアに必要なもの
佳作	鹿部町	鹿部町立鹿部中学校	2	かわむら きゆう 川村 球宇	繋がる未来
佳作	釧路市	北海道教育大学附属釧路中学校	2	いわき ひな 岩城 妃奈	お互いに寄りそって
佳作	根室市	根室市立光洋中学校	1	こんどう ひめか 近藤 妃香	北方領土返還に込める想い
佳作	根室市	根室市立歯舞小中学校	3	くわの こはる 桑野 心晴	北方領土問題について思ったこと
奨励賞	札幌市	札幌市立藤野中学校	2	みやうち かんた 宮谷内 勘太	北方領土、自由訪問の今後
奨励賞	登別市	登別市立緑陽中学校	2	さかいや かいと 堺谷 海斗	強き心と強き意思で前へ！
奨励賞	登別市	登別市立緑陽中学校	2	なかむら とき 中村 斗希	日本に欠かせない北方領土
奨励賞	登別市	登別市立緑陽中学校	2	ふかや いちご 深谷 いちご	平和的解決、人々の幸せ
奨励賞	釧路市	北海道教育大学附属釧路中学校	2	しみず ゆうか 清水 優花	どちらが悪い。どちらも悪くない。
奨励賞	釧路市	北海道教育大学附属釧路中学校	2	なりた よしあき 成田 善昭	「共存」という選択肢
奨励賞	釧路市	北海道教育大学附属釧路中学校	2	たかはし ひなこ 高橋 聖奈子	互いに分かり合う
奨励賞	釧路市	北海道教育大学附属釧路中学校	2	やまざき ひかる 山崎 光	これからの北方領土
奨励賞	根室市	根室市立歯舞小中学校	1	かんば りこ 干場 リコ	北方領土を返してほしいという思い
奨励賞	根室市	根室市立歯舞小中学校	3	しみず そら 清水 空	北方領土問題について
奨励賞	根室市	根室市立歯舞小中学校	2	つしま あかり 津嶋 明里	北方領土

【最優秀賞】

「返還を世界平和の象徴に」

中標津町立計根別学園

9年 近藤 夏林

「択捉島へ行ってみませんか？」

一枚のお便りが学校から配布されました。これが私の北方領土への考えを変えてくれたのです。もともと、北方領土には大きな国の問題として興味がありました。

「こんな近くに住んでいるのに、北方領土を知らないなんて恥ずかしい。」

と思い、実際に択捉島に行ってきました。行く前は、「ロシアは不法に日本の領土を占領した。」ということしか知らなかったため、ロシアに対して、怖いという印象を持っていました。ですが、実際に行ってみると、島に住んでいるロシア人は、笑顔で

「友人。」

と、迎えてくれました。私は、ロシア人に対しての印象が「ガラッ」と変わりました。択捉島へ訪問している時、私はふと思いました。

「以前、島に住んでいた日本人と、現在住んでいるロシア人が共有できる場にしてはどうだろうか。」

と。そうすれば、日本人にとってもロシア人にとっても、納得できるかもしれないと思いました。家に帰り、早速その話を家族にしてみると、父が言いました。

「それは違うんじゃない？」

私は驚きました。

「ロシアは、日本が戦争で苦しんでいる時に、日本との中立条約を結んでいるのにも関わらず、攻めてきたんだよ。」

という父からの話を聞き、ハッと気づきました。

「やっぱり、返還を求めるべきだ。」

と思い、日本が返還を求めている理由も、よくわかりました。

では、どうすれば日本に北方領土が返還されるのでしょうか。そもそも私のように、北方領土について正しく理解していない人がたくさんいるのではないだろうかと思い、私なりに考えた結果、三つの案が浮かびました。

一つ目は、学校で必ず北方領土について正しく理解してもらうための授業をすることです。例えば、社会の歴史の授業や道徳の授業などで取り入れられると思います。これは、小学生や中学生などの学生に正しい歴史を知ってもらうために効果的だと考えました。

二つ目は、根室市にあるニ・ホ・ロを全国に設立することです。北方領土について、楽しく、気軽にふれ合えるニ・ホ・ロを全国に設立することで、興味を持ってもらえると思いました。

三つ目は、択捉島などの北方領土の印象的な写真をSNSで公開することです。実際に北方領土へ行った人が、ロシア人と交流している様子や、島にある建物などを公開することによって、現在の北方領土の様子を知ることができると思います。

このようにして、正しい歴史や今の現状を知っている仲間を増やしていきたいです。そして、それらの力を集めて、ロシアの大統領に北方領土を返してほしいという日本の思いを伝えたいです。私たちのような若者が直接訴えることによって、「返してほしい！」という思いが伝わるかもしれません。

「ここまでするのか。」と心打たれるかもしれません。また、元島民の方達の高齢化が進み、返還への思いを伝える人が少なくなってきています。ですので、私たち若者がその思いを引き継ぐべきだと思います。そして、もしこの問題が解決できたならば、世界平和の象徴になると思います。

「武力を用いなくても国の問題は解決できるのだ。」

ということの世界に発信できると思います。七十年かかってしまいましたが、話し合いで解決しようとする日本は素晴らしいと思います。そんな国に生まれたことを誇りに思い、これからも北方領土返還運動に関わっていこうと思います。

【優秀賞】

「北方領土問題について」

網走市立呼人中学校中学校

2年 寺崎 結

私は八月二十八日に元島民の語り部の方からお話を聞きました。昔はどのような生活をしていたのか、占拠された時の様子、現在の生活はどのようなものかなど、教えていただきました。

北方四島は面積五千平方キロメートルで、歯舞群島では、面積が小さいながらもたくさんの方が生活していました。また、そこでは長さ5、6メートルの昆布を取って暮らしていました。他の島でも特に漁業が盛んで、漁を中心に生活していたそうです。戦争の間はひもじい生活をしていて、食べ物が自由に買えず毎日同じおかずで、それでも、わがままや不満は言えなかったそうです。そして戦争に勝ったロシアは不法に四島を占拠したそうです。無抵抗の人たちを銃で脅し、家を荒らされた、その時のことを長い年月がたった今でも忘れられないと話していました。

そんな毎日に耐えきれず、島を脱出する人もいたそうです。その後、兵隊が上陸し、島民の方は強制送還させられました。乗り込んだ船は貨物船で毎日パンと漬物を出されたそうです。船は不衛生で栄養失調で亡くなる方もいて、幼い赤ん坊ですら死んでしまえば海に捨てられてしまったそうです。

私はこの話をもっと多くの人へ語り継がれるべきだと思います。当時、島で暮らしていた自分の故郷を奪われ、その後、今現在も満足に島に行き来することもできていません。元島民の多くの方は悔しく悲しい思いを今もしています。最近、市のお祭りや行事などで北方領土返還に関する活動を目にします。そういった活動に参加していくことで、より北方領土への理解が深まっていくと思います。私たちの行動一つで少しでも状況が良くなるならば、それをしていくことが必要です。いつか北方領土が返還されることを願っています。

自分には関係ないことと思うのではなく、日本の領土が不法に占拠され、辛い思いを経験して、今、返還を目指して活動している人がいることを知ってほしいです。同じ日本の国民として、少しでもこのような意識を持つことが大きな力となるはずです。私自身も直接語り部の方から話を聞いて、昔の北方領土のことや現在の状況がよくわかり、理解を深めることができました。人から人へ語り継がれることでよりたくさんの人に。日本だけでなく、不法に占拠しているロシアにも、この事実を知ってほしいと思います。